

龍馬献上

建武二年の春、出雲より塩屋判官高貞龍馬を献上す。此馬出雲国富田を卯の刻に立て、其日の酉の刻に京着す。道法既に七十六里、鞍のうへ静にして坐せるが如し。帝吉凶を尋らるるに、洞院の相国異国の例を引て、吉瑞のよしを奏す。又万里小路藤房卿に尋給ひしに、同く異域の例を引て、凶瑞のよしを奏し給へば、龍顔うるはしからず。

藤房卿

聖主蒙荏ス元弘年 幾レモガ鳳賛ニ随テ此ニ周旋ス 偽影阪ズ関明善 道児産ノ物色シ伝ハ有り 畑維龍